

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 1 日現在

機関番号：32675

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730353

研究課題名 (和文) 社会運動・組織の時系列分析によるボトムアップ型市民社会論の検討

研究課題名 (英文) Discussion of the "bottom-up process" civil society theory by time series analysis of social movements and organizations

研究代表者

西城戸 誠 (NISHIKIDO MAKOTO)

法政大学・人間環境学部・准教授

研究者番号：00333584

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：イベントデータ、環境団体、時系列分析

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、抗議イベントデータと環境団体を中心とした運動組織の時系列データという2つのデータセットを構築し、そのデータによって時系列分析を行うことによって、1990年代後半以降の社会運動や社会運動組織の変容を明らかにすることである。抗議イベントデータは新聞記事からあらゆる抗議を抽出し、多様な抗議の形を量的に把握する。環境運動組織のデータは、『NGO総覧』に掲載されている団体データを時系列的に整理し、組織の変容を捉える。このような方法によって市民社会の様態の変化を人々の「集い」の形態と組織化というボトムアップからの視点から検討する。そして1990年代後半からの市民社会の動態を把握することによって、市民社会論に対して実証的な知見を提供することにしたい。

2. 研究の進捗状況

(1) 抗議イベントデータプロジェクトについては、1945年から2005年までのデータベースを構築した。2000年までのイベントデータに関する分析は、西城戸(2008)で実施し、戦後日本の抗議活動は、穏健化している傾向が計量的に把握することができた。また、第二次大戦後以降の抗議イベントデータを整備したドイツの事例と比較し、戦後日本の社会運動の動態を明らかにする作業を行った。この論考は発表媒体の関係で、公表は2011年度中になる予定である。

(2) 環境運動の時系列データプロジェクトについては、『環境NGO総覧』をデータソースとして、平成20年における日本全体の環境団体のデータと、平成7,10,13,16,18,20年の東京都の環境団体の時系列データを構築

した。データソースの特性についてパイロット的に分析をする手順を加えたため、データ完成にはやや時間がかかったが、日本の環境運動組織に関する、時系列データと都道府県別のクロスセクショナルデータが完成したことになる。なお、このデータによる具体的な分析と成果発表は平成23年度に実施する予定である。

(3) 2つのデータ構築と並行して、国際比較が可能なイベントデータ、運動組織データの情報を収集した。また、ボトムアップ型市民社会論を展開する上で、これまでの調査研究の知見を総合し、日本の環境運動、環境NPOに関する論考を著した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

理由としては、研究目的である2つのデータセット(抗議イベントデータと環境団体を中心とした運動組織の時系列データ)がほぼ完成したことが挙げられる。イベントデータを用いた分析はある程度進行し、論文の公表も行っているが、環境団体の時系列データに関しては、未分析であり、その点が評価を下げた点である。

4. 今後の研究の推進方策

環境団体の組織時系列データの具体的な分析、およびアウトプットについては、最終年度とその次の年までには実施したと考えていえる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕（計 1 件）

- ① Erik W. Johnson, Yoshitaka Saito, Makoto Nishikido, The Organizational Demography of Japanese Environmentalism, Sociological Inquiry 79/ 4, 481-504, 2009 年、査読有

〔図書〕（計 4 件）

- ① 船橋晴俊（編）、弘文堂、『環境社会学』、2011 年、208 ページ（西城戸誠「環境 NPO と環境運動」を執筆、217-233 ページ）
- ② 塩原良和・竹ノ下弘久（編）、弘文堂、『社会学入門』、2010 年、308 ページ（西城戸誠「市民運動・社会運動とつながる」を執筆、182-194 ページ）
- ③ 宮内洋・好井裕明（編著）、北大路書房、『〈当事者〉をめぐる社会学』、2010 年、232 ページ（西城戸誠「当事者へのかかわりと当事者としての「実践」を考える」を執筆、41-65 ページ）
- ④ 西城戸誠、人文書院、『抗いの条件』、2008 年、301 ページ